

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完全な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) 筆記試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。	
2	目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。	
3	メンタルブレン トレーニング 1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
4	メンタルブレン トレーニング 2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
5	栄養学からみる 内臓の仕組み	栄養学からその栄養がどのように体に使われているのかを知ること、内臓の仕組みなどに興味を持ち学ぶことができるようになる。	
6	勉強の仕方 1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
7	勉強の仕方 2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
8	経営の為の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。	
9	柔道整復師の仕事 について	自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。	
10	スポーツエンタメ トレーナー 1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる	
11	スポーツエンタメ トレーナー 2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる	
12	高齢者からみる柔 道整復師の役割	高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどのように関わるべきかを説明できる。	
13	筋力トレーニング から見る解剖	筋力トレーニングに必要な筋肉の起始停止を学び実践できる。	
14	筆記試験	今までの学びを振り返ることで半期の自分の成長を知ることができる。	
15	マナーとなぜ仕事 をするのか？	筆記試験の振り返りとともに、社会人としてのマナーの必要性和、なぜ仕事をするのかについて考え半期の授業の気づきの集大成とする。	
16			

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 2 Corse of Career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	1. 2

担当教員	武村俊哉・江頭麻里	実務者経験	2020年4月より東洋医療専門学校のカリヤセンターに入職。 学生の社会人基礎の育成や就職サポートを行う。
------	-----------	-------	---

学習内容	・グループワークを通して「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。 ・社会人基礎力を学び、マナーやコミュニケーションについて学ぶ。 ・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。
到達目標	・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを習得する。 ・現場で良好な関係性を築くことのできるコミュニケーション力を身に付ける。 ・自らのキャリアをデザインすることができる。

準備学習 時間外学習	次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容を将来を想定し復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	本講義は、実習を交えた授業を実施する。毎回の積極的な学生同士のコミュニケーションが求められる。

成績評価	提出物（５０％）、 授業態度（２０％）、 課題評価（３０％）
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	【武村】 キャリアとは	柔道整復師を目指すために何が必要か？今後やるべきことを見つめる。 クラス内で共有し自分自身の目標を形にする。	
2	高齢者対応について	認知症サポーター養成講座	
3	【江頭】 マナー①	「挨拶」「身だしなみ」「敬語」について学び、ビジネスマナーを身に付けることができる。	
4	【江頭】 マナー②	ケーススタディから電話応対や面接のマナーを身に付けることができる。	
5	【武村】 キャリアデザイン ①	自分自身の夢を形にする。クラスのメンバーと共有し今後の目標を考える。	
6	【武村】 キャリアデザイン ②	自分自身の夢を形にする。クラスのメンバーと共有し今後の目標を考える。	
7	【武村】 文章力	自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。 レポートと感想文の書き方の違いを理解する。	
8	【武村】 コミュニケーション	接客スキル向上に必要なコミュニケーションの基本を学ぶ。	
9	【武村】 ファイナンシャル リテラシー	人生とお金について学び、将来のプランについて考えることができる。	
10	【武村】 自分の見せ方	自分自身を見つめ直し、上手な自己表現方法を学ぶ。 相手の立場に立って見せ方見られ方について考える。	
11	【武村】 現場マナー	現場で必要な技術を実践を通して学ぶ。将来働く場所に必要な力について理解する。	
12	情報処理①	PowerPointの基本的な使用方法	
13	情報処理②	PowerPointの基本的な使用方法	
14	情報処理③	PowerPointの基本的な使用方法	
15	総まとめ	これまでの知識を統合し、現場でどう生かすかを考える。	

科目名 【英】	栄養学 Nutrition			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3.4
担当教員	前田 美紀子	実務者経験	1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月・2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。				
学習内容	(1)一般人とスポーツ選手の健康の維持・増進に役立つ栄養学の基礎知識を学ぶ。 (2)スポーツ選手の競技力の向上に対応できる栄養学の基礎知識を学ぶ。 (3)スポーツ障害・外傷・疾病の予防と回復に役立つリハビリテーション栄養（リハ栄養）の基礎知識を学ぶ。						
到達目標	(1)正しい食生活を科学的に理解し、一般人とスポーツ選手の健康の維持・増進に対応できるレベルに到達する。 (2)実際にスポーツ選手の栄養サポートに対応できるレベルに到達する。 (3)リハ栄養の知識を活用し、スポーツ障害・外傷・疾病の予防・回復に対応できるレベルに到達する。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・解剖生理学との関連を復習する。						
使用教材	配布プリント						
留意点 備 考	副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。						
成績評価	課題プリントの提出。期末試験80％＋課題プリント20％						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	スポーツ栄養学1 第1章栄養学概論	栄養学オリエンテーション 栄養学の目的について説明ができる	
2	スポーツ栄養学2 第2章スポーツ栄養学概論	スポーツ栄養学の目的について説明ができる スポーツ選手における栄養管理の重要性について説明ができる	
3	スポーツ栄養学3 第3章スポーツ栄養学を学ぶための基礎知識	栄養と栄養素の違いについて説明ができる 食品中の成分と分類について説明ができる 運動と食事のタイミングについて説明ができる	
4	スポーツ栄養学4 第4章スポーツ選手の食生活	試合に勝つための食習慣について説明ができる スポーツ選手の基本的食事について説明ができる	
5	スポーツ栄養学5 第5章スポーツ選手のエネルギー消費量	スポーツ選手のエネルギー消費量と一般人との違いについて説明ができる 体内代謝の種類について説明ができる スポーツ選手の体格評価と筋肉量について説明ができる	
6	スポーツ栄養学6 第6章スポーツ選手のエネルギー必要量	スポーツ選手のエネルギー必要量と一般人との違いについて説明ができる ウエイトコントロールとエネルギー調整について説明ができる スポーツ選手とエネルギー不足について説明ができる	
7	スポーツ栄養学7 第7章スポーツと糖質	炭水化物の定義、および、糖質の分類と種類について説明ができる スポーツにおける糖質の役割について説明ができる 糖質のとり方・グリコーゲンローディングについて説明ができる	
8	スポーツ栄養学8 第8章スポーツとたんぱく質	たんぱく質の定義、および、アミノ酸の分類と種類について説明ができる スポーツにおけるたんぱく質の役割について説明ができる たんぱく質のとり方について説明ができる	
9	スポーツ栄養学9 第9章スポーツとプロテイン・サプリメント	アミノ酸の役割とBCAAのとり方について説明ができる プロテイン・サプリメントについて説明ができる	
10	スポーツ栄養学10 第10章スポーツと脂質	脂質の定義、および、脂質の分類と種類について説明ができる スポーツにおける脂質の役割について説明ができる 脂質のとり方・ケトジェニック法について説明ができる	
11	スポーツ栄養学11 第11章スポーツ障害・外傷	スポーツでおこりやすい障害・外傷について説明ができる スポーツ障害・外傷の予防と回復のためのリハビリテーション栄養（栄養管理）について説明ができる	
12	スポーツ栄養学12 第12章スポーツと疾病	スポーツでおこりやすい体の不調と予防・回復のための栄養管理について説明ができる	
13	スポーツ栄養学13 第13章スポーツと水分	熱中症の種類と処置法について説明ができる 体水分量の評価法について説明ができる 水分補給法について説明ができる	
14	スポーツ栄養学14 第14章スポーツ栄養学のまとめ	スポーツ栄養学のまとめ	
15	スポーツ栄養学15 第15章スポーツ・サプリ 前期試験の解答・解説	サプリメントの概要について説明ができる エルゴジェニックエイドの活用について説明ができる 前期試験の解答・解説	

科目名 【英】	医学英語 Medical English			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	1.2

担当教員	南 雅子	実務者経験	1989年より医療系専門学校にて医学英語指導/医師、薬剤師、東洋医療治療者、理学療法士、看護師、スポーツ関係者への英語指導
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科)と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。
到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得していくことが望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) / 教材プリント
留意点 備 考	実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。

成績評価	診療会話などの発表と医療英単語の口頭試験を実施。前期末筆記試験70%+発表及び口頭試験30%で評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	医学英語1	授業内容の解説/専門英語へのwarm up/柔道整復基礎用語/Ch.1 受付の会話/医学英語の概要を理解する。 MA A~B	
2	医学英語2	柔道整復でよく使う症例名/Ch.2 病院各科の名称、Ch.3痛みの表現/presentation(1)英語の自己紹介 柔道整復治療において知っておきたい症例名をおさえる。 MA C~D	
3	医学英語3	Ch.3痛みの表現、人体の名称/ペインスケールの活用方/人体の名称/柔道整復関連用語(3) さまざまな痛みの英語表現とペインスケールの活用法を学ぶ。 MA E~H	
4	医学英語4	診療所の会話-受付、診察室(pair work)/Ch.4 症状名/一般的な症例名の言い方/人体の名称 整骨院の受付の会話、診察室での会話を練習する。 MA I~N	
5	医学英語5	presentation(2)診療所の会話-受付、診察室の会話(pair work)/Ch.5,6 内臓の名称、問診の表現 顔の名称/身体の名称捕捉	
6	医学英語6	trigger point/Ch.7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称 治療に重要な原因や発生時の特定の言い方を学習する。 MA O~S	
7	医学英語7	医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/CH.9,10 バイタルサイン、救急/痛みの特定 バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする MA T~Z	
8	医学英語8	柔道整復の診療のための表現/カルテ/CH.9,10 外科、検査/関連用具の英語 診療に必要な表現を使えるようになることを目標とする。 MA カルテ略語 FX について	
9	医学英語9	CH.12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/骨、筋肉の名称 整形外科、整骨院のリスニング練習により実践の英語になれる。/ presentation(3)説明	
10	医学英語10	presentation(3)-柔道整復治療の診療会話(sprint 提出)/関節可動域/膝関節/体組織 ch 13,14 リハビリ関連用語、表現可動域や膝関節の名称の習得、用具や指示の言い方の練習。	
11	医学英語11	presentation(3)-柔道整復治療の会話/会計、薬/診療のキーフレーズ/炎症の5兆候 柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。	
12	医学英語12	presentation(3)柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の5 カ国用) 柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。	
13	医学英語13	oral test-柔道整復、医学用語関連の用語の口頭試験/テキストのまとめ 医療略語チェック/ここまでの見直し。	
14	医学英語14	前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語およびフレーズ医学英語、医療訳語など) 試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。	
15	医学英語15	前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/緊急時の英語/work outの英語 整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説する。	

科目名 【英】	解剖学 1 Anatomy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	1999年4月～現在まで大阪医科大学医学部解剖学教室に所属。解剖学・組織学の講義および人体解剖に携わっている。
------	-------	-------	---

学習内容	まず概論として、解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、脈管系を学ぶ。
到達目標	人体の血管系・リンパ管系の仕組みを語ることが出来る。主要な動静脈の名称と部位が言える。

準備学習 時間外学習	学んだ箇所の復習が必要
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	講義資料を配布するが、教科書や配布資料への書き込み、線引き、色付けが出来る筆記用具（色鉛筆やカラーマーカー）を持参し、速やかにノート出来るよう心がける。

成績評価	筆記試験（100%）
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	解剖学概論 1	【解剖学的用語と細胞】	基本的な解剖学用語と細胞の構造（細胞内小器官）・体細胞分裂が説明できる。
2	解剖学概論 2	【上皮、支持組織、筋組織】	上皮の種類と構成する器官が説明でき、支持組織とは何か、筋の種類とその構造が説明できる。
3	解剖学概論 3	【人体の発生、三層性胚盤】	染色体や減数分裂など発生に関する基本的事項が説明できる。
4	脈管系 1	【脈管系の総論、肺循環・体循環、心臓の位置と形態】	脈管系を理解する基本的事項が説明できる。心臓の位置や表面からみる名称が言える。
5	脈管系 2	【心臓の弁、心臓壁の構造、刺激伝導系】	房室弁および心臓壁の構造・名称が説明でき、刺激伝導系について説明できる。
6	脈管系 3	【冠状動脈、冠状静脈洞、心膜、心臓の神経】	冠状動脈の各名称や冠状静脈洞が説明でき、心膜の構造を言える。
7	脈管系 4	【上行大動脈・大動脈弓・下行大動脈、総頸動脈（内・外頸動脈）】	各動脈の主な枝の名称と分布臓器が説明できる。
8	脈管系 5	【上行大動脈・大動脈弓・下行大動脈、総頸動脈（内・外頸動脈）、ウイリス動脈輪】	各動脈の主な枝の名称と分布臓器が説明できる。ウイリス動脈輪が説明できる。
9	脈管系 6	【大脳・小脳に分布する動脈】	前大脳動脈、中大脳動脈、後大脳動脈および小脳動脈と分布領域および関連する疾患
10	脈管系 7	【鎖骨下動脈とその枝、腋窩動脈とその枝、上腕動脈・橈骨動脈・尺骨動脈】	鎖骨下動脈・腋窩動脈とそれらの枝の名称が言え、上腕動脈～橈骨・尺骨動脈～浅・深手掌動脈弓が説明できる。
11	脈管系 8	【胸大動脈の枝、腹大動脈の枝、総腸骨動脈（内・外腸骨動脈）】	胸大動脈・腹大動脈・内腸骨動脈の各枝と分布臓器が言える。
12	脈管系 9	【下肢の動脈、静脈系・奇静脈系】	下肢の動脈、全身の静脈系と奇静脈系について説明できる。
13	脈管系 10	【胎児循環、リンパ系】	胎児循環やリンパ系の各器官の特徴が説明できる。
14	総復習 1	【総復習のため、国家試験方式で練習問題を解答、解説】	自分の言葉で解説ができる。
15	総復習 2	【総復習のため、国家試験方式で練習問題を解答、解説】	自分の言葉で解説ができる。

科目名 【英】	生理学 1 Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003. 11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	---------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学Iでは、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理学1	生理学概論 生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。
2		生理学2	細胞の構成要素を知る 核の構造・細胞小器官について説明することができる。
3		生理学3	細胞の基本的な機能を知る 細胞膜の機能・細胞内外における分子・イオンの流れを説明することができる。
4		生理学4	血液の組成と造血機構 血液の構成要素とその成り立ちを説明することができる。
5		生理学5	血液型・血液凝固・免疫のしくみ 血液の凝固機構、血液型のしくみ、免疫のしくみを説明することができる。
6		生理学6	心臓の構造・心筋の基本的性質1 心臓の構造について説明することができる。
7		生理学7	心筋の基本的性質2 心筋の収縮・伝導系について説明することができる。
8		生理学8	心電図・不整脈について 心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。
9		生理学9	血管の構造と働き 血管の構造・機能と血圧の成り立ちについて説明することができる。
10		生理学10	局所循環とリンパ・脳脊髄液について 局所血液循環、リンパ・脳脊髄液の組成・機能について説明することができる。
11		生理学11	循環の調節 血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。
12		生理学12	呼吸器の構造・換気のしくみ 呼吸器の構成要素・換気メカニズムについて説明することができる。
13		生理学13	ガス交換のしくみ 呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。
14		生理学14	呼吸調節機構 呼吸調節機構を説明することができる。
15		試験解説	試験の振りかえり

科目名 【英】	柔道 1 Judo 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、20年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/7	自己紹介と受講のきまり	自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。
2	4/14	柔道衣の着方と掃除方法	きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。
3	4/21	礼法と受身	立礼・座礼の方法を知り、学ぶ。後ろ受身を学び、理解する。
4	4/28	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。長座からの受身を知り、学ぶ。後ろ受身10×3セット 長座からの受身10×2セット
5	5/12	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。中腰からの受身を知り、学ぶ。後ろ受身2セット 長座からの受身3セット 中腰からの受身10×2セット
6	5/19	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。2人組中腰からの受身を知り、学ぶ。長座からの受身3セット 2人組中腰からの受身10×3セット 横受身の予習
7	5/26	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。横受身を知り、学ぶ。中腰からの受身3セット 横受身10×3セット
8	6/2	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。移動後ろ・横受身の方法を知り、学ぶ。前回り受身の形の説明をし、知り、学ぶ。
9	6/9	礼法と受身	立礼・座礼の確認と復習。移動後ろ・横受身2往復 前回り受身を左右3×2セット
10	6/16	礼法と立技	立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 組み方、動き方を知り、学ぶ。
11	6/23	礼法と立技	立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 肩幅調べ(自然本体) 自分の肩幅を知る。前回りさばきを知り、学ぶ。
12	6/30	礼法と立技	立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 支釣込足を知り、学ぶ。
13	7/14	礼法と立技	立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 一本背負投を知り、学ぶ。
14	9/1	礼法と受身	立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 試験の説明と練習
15	9/22	礼法と立技	試験の解説 立礼と座礼。移動後ろ・横受身 前回り受身左右3×2セット 試合の礼法を知り、学ぶ。

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験90%、小テスト10%】
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。
2		損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明できるようになる。
3		骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明できるようになる。
4		骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明できるようになる。
5		骨折の分類	骨折の分類について説明できるようになる。
6		骨折の症状	骨折の症状について説明できるようになる。
7		骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明できるようになる。
8		小児骨折	小児骨折の特徴について説明できるようになる。
9		高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できるようになる。
10		小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、もう一度知識の認識を行う。
11		骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明できるようになる。
12		骨折の予後	骨折の予後について説明できるようになる。
13		骨折の治癒に影響 を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明できるようになる。
14		全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。
15		試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	柔道整復師における診察、治療法（整復法、固定法、後療法）に対する基礎的知識の習得ができる。臨床現場において指導管理及び初期処置、外傷予防の理念を理解し活用できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の沿革	柔道整復師の歴史、業務範囲についての説明ができる。
2		治療法 1	骨折の整復法について整復時の配慮の理解と説明ができる。
3		治療法 2	骨折の整復法について整復法の分類、適応、不適応について理解と説明ができる。
4		治療法 3	脱臼の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。初期処置（RICE）の意味の理解、説明ができる。
5		治療法 4	固定法についての配慮、目的、範囲、期間、肢位等の理解と説明ができる。
6		治療法 5	固定法についての指導管理の理解と説明ができる。
7		治療法 6	手技療法の分類、目的、配慮、禁忌についての理解と説明ができる。基本的手技が行える。
8		治療法 7	運動療法の配慮、基本型について理解説明ができる。
9		治療法 8	運動療法の種類、応用、禁忌について理解説明できる。
10		指導管理	外傷予防に対する日常生活動作、患者環境に対する指導管理の内容の理解と説明ができる。
11		外傷予防 1	外傷予防の分類と外傷予防の第 1 段階の意味、内容の理解と説明ができる。
12		外傷予防 2	外傷予防の第 2 段階、第 3 段階の意味、内容が理解説明できる。
13		診察 1	診察時の注意点、手順（病歴聴取の進め方、身体診察の流れ）の離解説明ができる。
14		診察 2	診察の時期による分類、治療計画、施術録の扱いと記載についての理解と説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・関節・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）、解剖学教科書
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
2		関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
3		関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
4		脱臼 1	脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。
5		脱臼 2	脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。
6		脱臼 3	脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。
7		脱臼 4	脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。
8		脱臼 5	脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。
9		関節構成組織の損傷 1	靱帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
10		関節構成組織の損傷 2	関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。
11		関節構成組織の損傷 3	靱帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
12		関節構成組織の損傷 4	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
13		筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
14		筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
15		試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整基礎講座 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
	Course of Basic Judo Therapy			総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	1. 2

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師にとって必要な解剖学(神経と感覚器)の基礎を学ぶ
到達目標	ヒトを動かすメカニズムの一旦を担う神経に興味を持ち、構造を説明することができる。

準備学習 時間外学習	教科書を読む
使用教材	南江堂（解剖学）資料ノート
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	1/0	オリエンテーション	ヒトの身体の仕組みを知り、勉学に対する更なる意識付けを行う。
2	1/0	神経①	神経系とは？との概論に説明することが出来る。
3	1/0	神経②	神経細胞について説明することが出来る。
4	1/0	神経③	神経にまつわる解剖学用語について触れる。脊髄構造を説明出来るようになる。
5	1/0	神経④	脳幹構造について説明出来るようになる。
6	1/0	神経⑤	間脳構造について説明出来るようになる。
7	1/0	神経⑥	大脳構造について説明出来るようになる。
8	1/0	神経⑦	頸神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
9	1/0	神経⑧	腕神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
10	1/0	神経⑨	腰神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
11	1/0	神経⑩	仙骨神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
12	1/0	神経⑪	自律神経系について説明できるようになる。
13	1/0	感覚器①	視覚器構造について説明できるようになる。
14	1/0	感覚器②	聴覚器構造について説明できるようになる。
15	1/0	まとめ	前期の総復習を行い、相手に説明するプレゼンテーション

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩崎英明 、 竹田英樹	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り
2		導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。
3		指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。
4		指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。
5		指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。
6		指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。
7		指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。
8		指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）
9		評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。
10		手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
11		前腕の包帯	前腕の包帯が巻けるようになる。
12		固定具	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。
13		総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯
14		総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3・4
担当教員	小田垣 典行		実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。			
学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。						
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。						
準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。						
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	授業毎に次回に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 上肢骨の構成 長骨・短骨など違いを理解し、上肢骨の構成を理解する。	
2	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。	
3	骨 3 人体解剖学概説 1	人体の区分（P17） 総論（成長） 各論（鎖骨・上腕骨） 人体の区分や区分線や骨の成長を理解し、鎖骨・上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。	
4	骨 4 人体解剖学概説 2	器官系統（P17） 各論（橈骨・尺骨） 器官系を理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から触知できるようになる。	
5	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。	
6	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。	
7	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。	
8	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。	
9	関節 2	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
10	関節 3・骨 9	各論（足関節・椎骨の基本的構造） 足関節に付属する靭帯と関節の動きと椎骨の基本形を理解し説明できるようになる。	
11	関節 4・骨 10	各論（頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・骨盤） 頸椎の特別型・胸椎・腰椎の構造や分界線を理解し説明できるようになる。	
12	骨 11	各論（頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨・下顎骨） 頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。	
13	骨 12・関節 5	各論（頭蓋骨・脊柱の連結） 頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門、脊柱と頭蓋に付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
14	関節 6 体表解剖	各論（胸郭の連結） 胸郭の関節の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。 体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。	
15	テスト解説・筋	テスト解説 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014- 東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	---

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 神経の基本的機能について説明できる。 2. 神経系の機能を説明することができる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂） / 配布資料 / パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経の基本的機能 1	神経組織【神経組織の構成要素・ニューロンの形態】 ニューロンの形態を図示して説明することができる。	
2	神経の基本的機能 2	活動電位【静止膜電位・イオンチャネル・活動電位】 静止膜電位と活動電位の発生について説明できる。	
3	神経の基本的機能 3	興奮伝導【伝導の原則・シナプス伝達】 伝導の原則とシナプス伝達について説明できる。	
4	神経の基本的機能 4	興奮伝導と伝達【神経線維の分類・化学伝達物質・伝達の特徴】 神経線維を分類し、伝達の特徴について説明できる	
5	神経系の構成と機能 1	神経系の構成【神経系の分類・脊髄の構造と機能】 神経系を構造・機能で分類することができる。	
6	神経系の構成と機能 2	脳神経【脳神経の名称・構成・機能】 脳神経の番号と名称を挙げるができる。	
7	神経系の構成と機能 3	自律神経系【自律神経とは・伝達物質・機能】 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	
8	神経系の構成と機能 4	自律神経系【自律神経反射】 自律神経反射について説明できる。	
9	神経系の構成と機能 5	自律神経系【自律神経反射】 自律神経反射について説明できる。	
10	神経系の構成と機能 6	運動機能【運動単位・脊髄の運動機能】 運動単位を説明し、伸張反射の反射弓を図示できる。	
11	神経系の構成と機能 7	運動機能【姿勢反射・大脳皮質の運動機能】 一次運動野の局在、錐体路について図示して説明することができる。	
12	神経系の構成と機能 8	運動機能の調節【運動協調・運動学習】 小脳と大脳基底核の機能を説明できる。	
13	神経系の構成と機能 9	高次脳機能【機能局在・言語機能・脳波】 機能局在と言語中枢について説明できる。	
14	神経系の構成と機能 10	高次脳機能【睡眠・学習と記憶】 レム睡眠で見られる現象を挙げるができる。	
15	前期内容まとめ	前期講義内容の補填	

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 1 Course of Conditioning Trainer Skill 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	1.2
担当教員	福田 健人	実務者経験	2016年～現在 近畿大学アメリカンフットボール部 2021年6月～現在 東海大大阪仰星高等学校ラグビー部 2023年5月～現在 トヨタ自動車ビーチバレーボール部				
学習内容	トレーニングの原理原則, 基礎基本をもとに座学を交えながら実技を中心に学ぶ						
到達目標	トレーニングの原理原則, 基礎基本を理解し説明できるようになる。						
準備学習 時間外学習	特になし						
使用教材	決まった教科書が無いので、必要資料をプリントにて配布						
留意点 備 考							
成績評価	筆記60% / 小テスト20% / 出席＆平常点20%						

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション	アンケート実施、トレーナーとは
2		トレーナーとは トレーナーの役割	トレーナーの職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について説明ができる
3		柔軟性向上トレーニングの理論と実技 1	柔軟性向上トレーニングの基礎知識 体幹強化の為のトレーニング実技を行うことができる
4		柔軟性向上トレーニングの理論と実技 2	関節可動域の可動範囲が説明できる。
5		柔軟性向上トレーニングの理論と実技 3	静的・動的ストレッチの実技が行うことができる。
6		体幹トレーニングの理論と実技 1	体幹トレーニングの基礎知識 体幹強化の為のトレーニング実技を行うことができる
7		体幹トレーニングの理論と実技 2	体幹トレーニングの基礎知識 体幹強化の為のトレーニング実技を行うことができる
8		ウォーミングアップ実技 1	ダイナミックストレッチ、ムーブメントプレパレーションの定義を学び実技を行うことができる
9		ウォーミングアップ実技 2	ダイナミックストレッチ、ムーブメントプレパレーションの定義を学び実技を行うことができる
10		ステップワークドリル実技 1	競技動作における基本的なステップワークを学び動作を習得する事ができる
11		ステップワークドリル実技 2	競技動作における基本的なステップワークを学び動作を習得する事ができる
12		トレーニングの基礎／筋力トレーニング実技 1	基礎筋生理学／自重による基本的筋力トレーニングの実技を行うことができる
13		トレーニングの基礎／筋力トレーニング実技 2	基礎筋生理学／自重による上肢筋力トレーニングの実技を行うことができる
14		トレーニングの基礎／筋力トレーニング実技 3	トレーニング科学／自重による下肢筋力トレーニングの実技を行うことができる
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	手技療法 1 Manual Therapy Skill Training			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火・木	時 限	2

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	前期で腰から下の筋肉を理解し、慰安目的の手技療法が出来る様になる。

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) : 実技試験100%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーリング	この授業で行われる授業の理念、内容及び評価の仕方を説明できる	
2	勉強についての	技術と知識の重要性とやり方について説明できる	
3	手技療法について	手技療法の授業の進め方、学び方、基礎を学び説明できる	
4	手技療法基礎 軽擦	手技療法の基礎を学び、軽擦が出来る	
5	ハムストリングへのアプローチ	ハムストリングに対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、ハムストリングの解剖学を学ぶ。	
6	下腿へのアプローチ	脛脛に対して、拇指圧迫法、揉捏法、伸展法を用いて施術ができる。また、脛脛に対しての解剖学を学ぶ。	
7	足裏へのアプローチ	足裏に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。また、足全般に対しての解剖学を学ぶ。	
8	今までの復習	人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。	
9	腸脛靭帯へのアプローチ	腸脛靭帯に対して、手掌強擦法を用いて施術ができる。また、腸脛靭帯等に対しての解剖学を学ぶ。	
10	殿筋へのアプローチ	殿筋（大殿筋、中殿筋、梨状筋）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。	
11	腰へのアプローチ	腰部に対して、拇指圧迫法を用いて施術が出来る。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。	
12	自分たちで評価	前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。	
13	前期復習及び実技試験準備	前期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う	
14	実技試験	面談方式による実技試験	
15	振り返り	前期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し	

科目名 【英】	基礎医学講座 1 Course of Basic Medicine 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	本田 珠美	実務者経験	2022年4月から付属接骨院にて勤務
------	-------	-------	--------------------

学習内容	骨模型を使用し骨の各部位を立体的に知り、骨の特徴を理解する。 骨に付着する筋肉の起始停止を知り、理解する。
到達目標	模型の観察を通じて、骨の部位名称・左右・筋肉の起始停止を説明できるようになり、骨折や脱臼の転位・ 整復の理解をしやすくなるようにする。

準備学習 時間外学習	解剖学の教科書を確認しておく。
使用教材	配布プリント、骨模型
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実習の期末試験80%、小テスト20%（筆記）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入教育・骨総論	この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう。 骨の特徴に触れて部位事の特徴を知る。 部位名称の特徴を説明できる。
2		上肢帯	鎖骨・肩甲骨について学習しポイントの理解を深める。
3		自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
4		自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
5		確認試験①	上肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。
6		上肢の筋	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
7		上肢の筋	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
8		下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。
9		自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
10		自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
11		確認試験②	下肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。
12		下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
13		下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
14		総復習	履修した内容について再度確認を行う
15		試験解説	前期末試験の解説

科目名 【英】	社会福祉学 Social Welfare			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	中川 るみ	実務者経験	大阪保健福祉専門学校、京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などに勤務し、現在に至る。
------	-------	-------	--

学習内容	「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。
到達目標	人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	福祉にかかわる人のための人権読本 （法律文化社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		社会福祉とは	わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。
2		社会福祉の歴史 (1)	慈善事業の背景について考え、説明することができる。
3		社会福祉の歴史 (2)	社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。
4		個人の尊厳と基本的人権	個人の尊厳の意義について考え、説明することができる。
5		基本的人権の歴史 (1)	憲法前文と憲法条文について考え、説明することができる。
6		基本的人権の歴史 (2)	新しい人権について考え、説明することができる。
7		平等権の保障	法の下での平等について考え、説明することができる。
8		財産権の保障	成年後見制度について考え、説明することができる。
9		高齢者福祉	高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。
10		障害者福祉	障害者を対象とした法制度について考え、説明することができる。
11		介護保険制度	制度の概要について考え、説明することができる。
12		社会保障制度 (1)	医療保障について考え、説明することができる。
13		社会保障制度 (2)	年金保障について考え、説明することができる。
14		社会保障制度 (3)	雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。
15		全編のまとめ	前期試験解説

科目名 【英】	解剖学 2 Anatomy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	1. 2

担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	1999年4月～現在まで大阪医科薬科大学医学部解剖学教室に所属。解剖学・組織学の講義および人体解剖に携わっている。
------	-------	-------	---

学習内容	様々な内臓系の臓器の肉眼的並びに組織学的な正常構造を学び、その機能も理解する。
到達目標	内分泌系の各臓器の各部名称と機能について説明することが出来る。構造と機能が関連性をもって理解できる。

準備学習 時間外学習	学んだ箇所の復習が必要
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	講義資料を配布するが、教科書や配布資料への書き込み、線引き、色付けが出来る筆記用具（色鉛筆やカラーマーカー）を持参し、速やかにノート出来るよう心がける。

成績評価	筆記試験（100%）
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	内臓系 1	【消化器系（口腔、唾液腺）、消化管の一般構造、消化器系（唾液腺・歯）】 消化管の一般構造が説明でき、消化器系（唾液腺・歯）の特徴が言える。	
2	内臓系 2	【消化器系（口腔～大腸）】 消化器系（口腔～大腸）の特徴が言える。	
3	内臓系 3	【消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）、腹膜】 消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）の特徴が言え、腹膜について説明できる。	
4	内臓系 1～3 （復習）	消化器系の復習（各唾液腺の特徴と相違、小腸と大腸の特徴と相違が説明できる。腹膜について理解する）	
5	内臓系 4	【呼吸器系（鼻腔～肺）】 鼻腔、咽頭、喉頭、気管支の構造について説明できる。肺の構造、血液空気関門について説明できる。	
6	内臓系 5	【泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）】 腎臓の各部構造と機能が説明できる。尿管、膀胱、尿道の構造について説明できる。	
7	内臓系 5	【男性生殖器】 男性生殖器の各部名称と機能が説明できる。	
8	内臓系 6	【女性生殖器】 女性生殖器の各部名称と機能が説明できる。卵巣と子宮粘膜の周期的変化とホルモンの関係が説明できる。	
9	内臓系 4～6 （復習）	呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の復習	
10	内分泌系 1	【内分泌の基礎と下垂体】 内分泌系の仕組みが理解できる。下垂体の各部の名称と機能が説明できる。分泌過剰や減少と疾患との関わりが理解できる。	
11	内分泌系 2	【松果体、甲状腺、副腎】 松果体、甲状腺、副腎の各部の名称と機能が説明できる。分泌過剰や減少と疾患との関わりが理解できる。	
12	内分泌系 3 内分泌系復習	【膵臓および精巣・卵巣、内分泌系まとめ】 膵臓および精巣・卵巣について、内分泌の働きをしている部位とその機能が説明できる。分泌過剰や減少と疾患との関わりが理解できる。内分泌系についての復習する。	
13	内分泌系まとめ	内分泌系の仕組みを自らの言葉で説明できる。 内分泌系の各臓器についてまとめ、分泌過剰症や低下症について説明できる。	
14	復習 1	【国試形式による練習問題とその解説】 自分の言葉で解説ができる。	
15	復習 2	【国試形式による練習問題とその解説】 自分の言葉で解説ができる。	

科目名 【英】	生理学 2 Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003. 11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	---------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学2では、消化・排泄・内分泌など生物として必要な代謝機能とそれに関わる因子を理解することを目指す

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備 考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		尿の生成と排泄1	腎臓の構造と機能を説明する事ができる。
2		尿の生成と排泄2	糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構を説明することができる。
3		尿の生成と排泄3	尿の排泄機構をを説明することができる。
4		栄養と代謝経路1	生体に必要な栄養素を説明することができる。
5		栄養と代謝経路2	基礎代謝の概念を理解し、エネルギー代謝について説明することができる。
6		消化と吸収1	消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機序を説明することができる。
7		消化と吸収2	消化器各器官での消化液ならびに消化ホルモンの作用機序を説明することができる。
8		消化と吸収3	栄養素ごとの消化・吸収のメカニズムを説明することができる。
9		体温調節のしくみ 1	体温の生理的意義を学び、熱産生について説明することができる。
10		体温調節のしくみ 2	熱放散機構を理解し、体温調節機構についても説明することができる。
11		内分泌総論	内分泌系の概要を理解する。
12		内分泌各論1	視床下部・下垂体ホルモンについて説明することができる。
13		内分泌各論2	甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明することができる。
14		内分泌各論3	副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明することができる。
15		試験解説	試験の振りかえり 試験での問題点を振りかえる□

科目名 【英】	柔道 2 Judo 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、20年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のＴシャツ
留意点 備 考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	礼法と寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	寝技の説明を聞き、知り、学ぶ。 袈裟固を学び、できるようになる。
2	礼法と寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	袈裟固の返し方を知り、できるようになる。袈裟固で受取20秒×3人
3	礼法と寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	横四方固の受取を知り、できるようになる。横四方固めの受取20秒×3人
4	礼法と寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	縦四方固の受取を知り、できるようになる。縦四方固めの受取20秒×3人
5	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転を知り、できるようになる。前転4回 試合の礼法の復習 相手を投げてからの(膝車)袈裟固を知り、学ぶ。
6	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 大腰の受取を知り、学ぶ。大腰からの袈裟固ができるようになる。
7	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 一本背負投からの袈裟固を知り、できるようになる。乱取1分×3人
8	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 小外刈からの連続技を知り、学ぶ。小外刈からの袈裟固ができるようになる。乱取1分×3人
9	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 大外刈を知り、学ぶ。小外刈からの大外刈を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人
10	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 体落を知り、学ぶ。小外刈からの体落を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人
11	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 払腰を知り、学ぶ。試験の大外刈を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人
12	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 試験の大外刈の練習 乱取2分×3人
13	礼法と立技からの寝技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 試験の大外刈の練習 乱取2分×3人
14	礼法と立技	立礼と座礼。前回り受身2×3セット	前転4回 試合の礼法の復習 試験の説明と練習
15	紅白試合	紅白試合を体験し、昇段審査を知り、学ぶ。	

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2		消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3		消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4		消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5		消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6		消化器と内分泌	消化器に関するホルモンを知り、説明できるようになる。
7		肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できるようになる。
8		肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できるようになる。
9		泌尿器	腎の構造について知り、説明できるようになる。
10		泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できるようになる。
11		泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できるようになる。
12		泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
13		泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
14		総復習	消化器系・泌尿器系の演習問題を行い、知識の定着を図る。
15		総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 肩関節の構造を理解し、分類や症状について説明できる。
2		肩関節脱臼 2	【前方脱臼の実技】 前方脱臼の整復法や固定法を知り、反復性脱臼に移行しやすい理由を説明できる。
3		肩関節脱臼 3	【前方脱臼以外】 後方、下方、上方脱臼の特徴について説明ができる。
4		肩関節部の軟損 1	【筋、腱の損傷】 腱板損傷について説明ができる。
5		肩関節部の軟損 2	【筋、腱の損傷】 上腕二頭筋長頭腱損傷について説明ができる。
6		肩関節部の軟損 3	【スポーツ損傷 1】 ベネット損傷、SLAP損傷について説明ができる。
7		肩関節部の軟損 4	【スポーツ損傷 2】 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について説明ができる。
8		肩関節部の軟損 5	【不安定症】 ルーズショルダーについて説明ができる。
9		肩関節部の軟損 6	【末梢神経障害】 肩甲上神経と腋窩神経の構造と絞扼障害について説明ができる。
10		肩関節部の軟損 7	【その他の肩軟損】 五十肩について説明ができる。
11		小テスト	肩関節脱臼、肩関節部軟損について理解を深める。
12		肘関節脱臼 1	【解剖、概説、後方脱臼】 後方脱臼の発生機序について説明ができる。
13		肘関節脱臼 2	【前方脱臼、側方脱臼、肘内障】 成人と小児の肘の構造の違いを理解し、肘内障について説明ができる。
14		総復習	問題演習
15		試験解説	試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4
担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。				
学習内容	柔道整復学各論を頭部・顔面部・脊椎部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。						
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。						
準備学習 時間外学習	解剖学の予習が必要						
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント						
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。						
成績評価	期末試験100%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	頭部骨折①	頭部の骨、筋等の構造 頭部骨折の分類について説明できる。	
2	頭部骨折②	頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折の分類、合併症について説明できる。	
3	顔面骨骨折①	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折 上顎骨骨折について説明できる。	
4	顔面骨骨折②	頬骨骨折、下顎骨骨折の症状や合併症について説明できる。	
5	頸椎骨折①	上位頸椎骨折（環椎骨折）について説明ができる。	
6	頸椎骨折②	上位頸椎骨折（軸椎骨折）について説明ができる。	
7	頸椎骨折③	中・下位頸椎骨折について分類や病態の説明ができる。	
8	胸椎骨折	胸椎骨折について説明ができる。	
9	腰椎骨折	腰椎骨折について説明ができる。	
10	頭部・顔面部の脱臼	顎関節脱臼についての説明ができる。	
11	頸椎・胸椎・腰椎脱臼	頸椎脱臼。胸椎脱臼・腰椎脱臼につて説明ができる。	
12	胸椎脱臼・腰椎脱臼	胸椎脱臼・腰椎脱臼について説明ができる。	
13	頸部軟損①	頸部軟損損傷についての説明ができる。	
14	復習	今までの復習	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論の肩鎖関節脱臼、大腿骨骨折を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編第7版）・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		腱の損傷 1	腱の構造と機能・腱の補助装置・腱損傷の概説
2		腱の損傷 2	腱損傷の程度による分類・腱損傷部位による分類・腱損傷の治癒機序
3		神経損傷 1	神経損傷の分類・外力の働き方による分類
4		神経損傷 2	末梢神経損傷の症状・末梢神経損傷の治癒機序
5		鎖骨の脱臼 1	鎖骨の脱臼の分類・胸鎖関節前方脱臼の症状
6		鎖骨の脱臼 2	肩鎖関節上方脱臼の整復法、治療法
7		大腿骨近位端部骨折 1	大腿骨骨頭部骨折の概説・大腿骨頭部骨折の概説、症状
8		大腿骨近位端部骨折 2	大腿骨頭部骨折の治療法、パウエル・ガーデンの分類・治癒困難な理由
9		大腿骨近位端部骨折 3	大腿骨頭部骨折の合併症・大腿骨転子部骨折・大転子単独骨折・小転子単独骨折
10		大腿骨骨幹部骨折 1	大腿骨骨幹部骨折の概説・発生機序
11		大腿骨骨幹部骨折 2	大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、治療法、合併症
12		大腿骨遠位端部骨折 1	大腿骨遠位端部骨折の分類、大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端腺離開
13		大腿骨遠位端部骨折 2	大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折
14		復習	今までの復習
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	赤井 宝	実務者経験	2015年4月～2020年1月まで整形外科に所属し、機能回復訓練および 整復、固定を行う。
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を胸郭、上肢帯を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場および柔道整復師の国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	胸郭、上肢帯の解剖の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 3～4回程度、授業開始時に小テストを実施する。

成績評価	期末試験90%＋小テスト10%で評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	胸背部の解剖 肋骨・肋軟骨骨折	胸郭周辺の構造と機能について説明できる。 肋骨・肋軟骨骨折の概要について説明できる。	
2	肋骨・肋軟骨骨折	肋骨・肋軟骨骨折の発生機序や治療法などについて説明できる。	
3	胸骨骨折	胸骨骨折について説明できる。	
4	上肢帯の解剖 鎖骨骨折	肩甲骨、鎖骨周辺の構造と機能について説明できる。 鎖骨骨折の概要について説明できる。	
5	鎖骨骨折 1	鎖骨骨折の発生機序、分類、症状について説明できる。	
6	鎖骨骨折 2	鎖骨骨折の固定や治療法、後遺症などについて説明できる。	
7	鎖骨脱臼 1	鎖骨脱臼の概要や発生機序、分類、症状について説明できる。	
8	鎖骨脱臼 2	鎖骨脱臼の固定や治療法、後遺症などについて説明できる。	
9	肩甲骨骨折	肩甲骨骨折の分類や発生機序、治療法などについて説明できる。	
10	腰背部の解剖	腰背部の構造と機能について説明できる。	
11	胸背部の軟部組織 損傷 1	胸肋関節損傷、肋間筋損傷について説明できる。	
12	胸背部の軟部組織 損傷 2	胸背部の打撲傷・軟部組織損傷について説明できる。	
13	腰部の軟部組織損 傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる	
14	復習	今までの復習	
15	試験解説	後期試験の解説	

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	物理療法の分類を理解し、作用と原理を学ぶ。
到達目標	物理療法機具の禁忌と使用方法を説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	リハビリテーション医学の物理療法も参照。
使用教材	柔道整復理論 改訂第7版
留意点 備 考	

成績評価	100% 筆記試験
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		物理療法の分類	物理療法を分類し安全対策、禁忌を説明ができる。
2		主要な物理療法 1	低周波の効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
3		主要な物理療法 2	干渉波療法、温熱療法の効果と禁忌が説明できる。
4		主要な物理療法 3	ホットパック療法、パラフィン浴療法、局所浴の適応と禁忌が説明できる。
5		主要な物理療法 4	赤外線療法の効果、マイクロ波の使用上の注意・禁忌が説明できる。
6		主要な物理療法 5	超音波、光線療法（レーザー）の使用効果と禁忌が説明できる。
7		主要な物理療法 6	寒冷療法の効果、伝導冷却法、対流冷却法を説明できる
8		主要な物理療法 7	牽引療法の適応と効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		三角巾	三角巾で提肘できるようになる。
2		肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。
3		肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
4		樹脂副子 1	ブライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
5		肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。
6		特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯
7		特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
8		特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
9		副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
10		副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
11		枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。
12		肘の包帯 1	肘関節離開亀甲帯が巻けるようになる。
13		肘の包帯 2	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。
14		総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	山田 靖典 / 林 宏明	実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務 (林) 2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	--------------	-------	---

学習内容	主要関節の評価を行う (SFMA Selective Functional Movement Assessment)
到達目標	関節の機能不全について明確に原因を導き出す。そのために運動器 (筋肉) の知識が必要であると理解する。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	毎回筋肉の小テスト実施

成績評価	授業評価 50%、筆記テスト 50%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす	90分
2		SFMAについて	SFMA (評価法) の目的・ルールを覚える。	90分
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6		肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分

16		物理療法体験	電気療法、干渉波、SSP療法を体験し効果を理解する。
17		物理療法体験	温熱療法、ホットパック、パラフィン浴療法を体験し理解する。
18		手技療法の実際	各手技基本の形をマスターする。
19		物理療法体験	牽引療法 腰部牽引、頸部牽引を体験し効果を理解する。
20		手技療法の実際	腰部・下肢の手技ができるようになる。
21		物理療法体験	変換熱、マイクロ波、超音波、レーザー治療を体験し理解する。
22		手技療法の実際	頸部・上肢の手技ができるようになる。
23		整骨院業務	カルテ、保険証、レセプトの説明。業務範囲について改めて理解する。

科目名 【英】	柔整解剖 B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事。現在に至る。
------	--------	-------	------------------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施する。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。
2		筋 2	上腕の筋 前腕の屈筋 上腕の筋や前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
3		筋 3	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。
4		筋 4	前腕の伸筋 前腕の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。
5		筋 5	手の筋 内寛骨筋 手の筋や内寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
6		筋 6	下肢帯の筋（外寛骨筋） 外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。
7		筋 7	大腿の屈筋・伸筋・内転筋 大腿の屈筋・伸筋・内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。
8		筋 8	大腿の内転筋 下腿の伸筋 大腿の内転筋や下腿の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。
9		筋 9	下腿の屈筋・腓骨筋 顔面筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
10		筋 10	足の筋 咀嚼筋 浅頸筋 舌骨上・下筋 深頸筋 咀嚼筋や浅頸筋や舌骨上・下筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
11		筋 11	深頸筋 胸部の筋 深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。
12		筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。
13		筋 13	浅・深背筋 頭蓋底 頸部の三角 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。頭蓋底の孔に通る血管・神経や頸部の三角を説明できる
14		筋 14・骨	体表解剖P280～296 体表から筋・血管を触知、確認できる。神経の圧痛点を確認できる。
15		テスト解説 まとめ	テスト解説 一年間のまとめ。

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014- 東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	---

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 筋収縮について説明できる。 2. 感覚のメカニズムを説明することができる。 3. 性周期、カルシウム調節に関わるホルモンと身体の変化について説明できる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次回の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂） / 配布資料 / パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋生理 1	筋収縮【筋組織と骨格筋収縮のしくみ】 筋組織について説明できる。	
2	筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。	
3	筋生理 3	筋収縮【長さ-張力の関係・筋収縮のエネルギー】 エネルギー供給系を説明できる。	
4	筋生理 4	筋収縮【平滑筋・心筋】 平滑筋と心筋の特徴を説明できる。	
5	感覚 1	総論【感覚の種類と一般的性質】 感覚を分類できる。	
6	感覚 2	特殊感覚【視覚】 眼球の構造を説明できる。	
7	感覚 3	特殊感覚【視覚・網膜・光受容・光量、遠近調節・伝導路】 視細胞の機能を説明できる。	
8	感覚 4	特殊感覚【嗅覚・味覚】 受容器を挙げることができる。	
9	感覚 5	特殊感覚【聴覚・前庭感覚】 音の伝達について説明できる。	
10	感覚 6	体性感覚【表在感覚・深部感覚・内臓感覚】 表在感覚と深部感覚の伝導路の違いを知る	
11	感覚 7	体性感覚【痛みのメカニズム】 痛みの分類を説明できる。	
12	生殖 1	生殖【性決定と性分化 男性生殖 女性生殖】 性決定、精子形成と卵巣・月経周期について説明できる。	
13	生殖 2	女性生殖【妊娠と分娩、乳汁分泌】 排卵から着床までの過程を説明できる。	
14	骨生理 1	骨組織【カルシウム代謝】 骨代謝に関わるホルモンを挙げることができる。	
15	後期内容まとめ	後期講義内容の補填	

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 2 Course of Conditioning Trainer Skill 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	1. 2

担当教員	福田 健人	実務者経験	2016年～現在 近畿大学アメリカンフットボール部 2021年6月～現在 東海大 阪仰星高等学校ラグビー部 2023年5月～現在 トヨタ自動車ビーチバレーボール部
------	-------	-------	--

学習内容	トレーニングの原理原則, 基礎基本をもとに座学を交えながら実技を中心に学ぶ
到達目標	トレーニングの原理原則, 基礎基本を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	特になし
使用教材	決まった教科書が無いので、必要資料をプリントにて配布
留意点 備 考	

成績評価	筆記60% / 小テスト20% / 出席&平常点20%
------	-----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋力トレーニング 1	筋力トレーニングの効果を学び説明できる	
2	筋力トレーニング 2	筋力トレーニングの条件設定を学び説明できる	
3	筋力トレーニング 3	筋力トレーニングの条件設定を学び説明できる	
4	プライオメトリクス実技 1	下肢へのプライオメトリクス・・・ジャンプトレーニングを理解し出来る	
5	プライオメトリクス実技 2	下肢へのプライオメトリクス・・・ジャンプトレーニングを理解し出来る	
6	スプリントドリル実技 1	基本的なランニング動作を学び、動作を習得する事ができる	
7	スプリントドリル実技 2	基本的なランニング動作を学び、動作を習得する事ができる	
8	アジリティー・クイックネストトレーニング 1	アジリティー・クイックネストトレーニングを学び、実技を行う事ができる	
9	アジリティー・クイックネストトレーニング 2	アジリティー・クイックネストトレーニングを学び、実技を行う事ができる	
10	最新のトレーニングアプローチについて 1	VBT、動作学の情報について学び、説明ができる	
11	トレーニングプログラムの作成 1	目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる	
12	トレーニングプログラムの作成 2	目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる	
13	トレーニングプログラムの作成 3	目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる	
14	後期の復習	実技を中心に後期に実施した内容のおさらいと確認	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	手技療法 2 Manual Therapy Skill Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水・木	時 限	2

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	後期で腰から上の筋肉を理解し、慰安目的の手技療法が出来る様になる。

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) : 実技試験100%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	前期手技療法の復習	前期学んだ手技療法を復習し、学んだことの反復性の重要性を学ぶ	
2	背中へのアプローチ	背中（脊柱起立筋等）に対して、拇指圧迫法、肘を用いての施術ができる。また、脊柱起立筋等の解剖学を学ぶ	
3	ローテーターカフ（肩甲骨）へのアプローチ	ローテーターカフ（肩甲骨）に対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、肩甲骨の解剖学を学ぶ。	
4	ローテーターカフ（肩甲骨）へのアプローチ	ローテーターカフ（肩甲骨）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術が出来る。また、肩甲骨の解剖学を学ぶ。	
5	三角筋へのアプローチ	三角筋に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術が出来る。また、三角筋の解剖学を学ぶ。	
6	上腕三頭筋へのアプローチ	上腕三頭筋に対して、手掌圧迫法、揉捏法、を用いて施術ができる。また、上腕三頭筋に対しての解剖学を学ぶ。	
7	今までの復習	人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。	
8	僧帽筋へのアプローチ	僧帽筋に対して、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、僧帽筋等に対しての解剖学を学ぶ。	
9	頸部へのアプローチ	頸部に対して、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、頸部等に対しての解剖学を学ぶ。	
10	大腿四頭筋、前脛骨筋へのアプローチ	大腿四頭筋、前脛骨筋に対して、手掌圧迫法、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。	
11	上半身全面へのアプローチ	上半身全面に対して、拇指圧迫法、伸展法を用いて施術が出来る様になる。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。	
12	自分たちで評価	前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。	
13	前期復習及び実技試験準備	後期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う	
14	実技試験	面談方式による実技試験	
15	振り返り	後期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し	

科目名 【英】	基礎医学講座 2 Course of Basic Medicine 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	1.2

担当教員	本田 珠美	実務者経験	2022年より附属接骨院にて勤務
------	-------	-------	------------------

学習内容	柔道整復師として必要な基礎知識を学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるように医学を学ぶ上で必要な基礎知識について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書をしっかり読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『解剖学 改定第2版』、教科書『生理学 改定第4版』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験90%、小テスト10%で評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		神経解剖	神経の基本構造及び脳に関して説明出来るようになる。
2		神経解剖	脳神経（Ⅰ～Ⅻ）に関して説明出来るようになる。
3		神経解剖	頸神経叢に関して説明出来るようになる。
4		神経解剖	腕神経叢に関して説明出来るようになる。
5		神経解剖	腕神経叢に関して説明出来るようになる。
6		神経解剖	腕神経叢の障害に関して説明出来るようになる。
7		神経解剖	腰神経叢に関して説明出来るようになる。
8		神経解剖	仙骨神経叢に関して説明出来るようになる。
9		中間試験	神経系の試験を行い知識の定着を図る。
10		神経解剖	伝導路に関して説明出来るようになる。
11		呼吸器解剖	鼻～咽頭までの解剖に関して説明出来るようになる。
12		呼吸器解剖	気管～肺までの解剖に関して説明出来るようになる。
13		呼吸器解剖	酸素解離曲線に関して説明出来るようになる。
14		まとめ	後期の履修内容に関して説明出来るようになる。
15		試験解説	後期試験解説